

岩沼出張所つうしん

第 52 号
平成 17 年 11 月 30 日
仙台河川国道事務所 岩沼出張所
岩沼市館下 1 丁目 2 - 9
TEL 0 2 2 3 - 2 2 - 2 8 0 1

柴田町クリーン町民のつどい

「泣いてるよ あきかんカラカラ 道ばたで」をスローガンに、11月10日（木）午前10時から阿武隈川・白石川合流点より槻木大橋間の堤防や河川敷で、柴田町環境美化推進協議会、柴田町地域ボランティア活動実行委員会主催による清掃活動が、好天の下さわやかに実施されました。

環境美化推進協議会長である滝口柴田町長のあいさつ、武山テル子さんの環境美化宣言のあと、参加者が思い思いに堤防や高水敷きに別れて、紙ゴミや空き缶などを集める一斉清掃を開始。昼近くまで汗を流しました。

最後に、「小山渡船場・歴史公園」で閉会行事が行われ、「自然と人が共生できる環境にやさしい町しばた」をめざし、身近にできる環境美化活動から取り組むことを誓い合いました。

参加者の皆様、ご苦労様でした。 岩沼出張所の職員も2名で参加しました。



開会行事で滝口柴田町長のあいさつ

白石川・排水施設進入路が完成

白石川の内水を排水する施設（通称：排水ピット）までの排水ポンプ車の進入路が、JR東北本線・阿武隈急行線の鉄道橋に対する車両規制柵を設置して、このほど完成しました。

これまで、堤防天端には歩道の安全柵が設置しており、車の通行ができませんでした。そのため、排水ポンプ車は、内水の氾濫域を通行しての進入を余儀なくされてきました。これからは、時間の遅れなどを気にせず、国道349号から堤防天端を通行して、排水ピットに進入できるようになりました。

昨年の堤防天端の拡幅工事以来、歩行者・自転車通行者にご迷惑をおかけしておりましたが、バリケード等も撤去して、通常通行が可能になりました。



排水施設進入路（白石川右岸・白幡橋付近）

亘理町小山水防倉庫付近の旧堤防の土が堤防側帯に

宮城県で管理しております阿武隈川の旧小山堤防（山付堤防）の土を利用して、阿武隈川右岸の11.8km付近に、土のう製作や災害復旧に利用する土を備蓄する「堤防側帯」を整備しております。

それに先立ち、土を供給した旧小山堤防は、周辺の畑と同じ高さに削られ、長年、亘理町小山地区を水害から守ってきた役割を川沿いの新しい堤防に譲り、その役目を終えました。

なお、旧堤防は昭和25～28年に掛けて、人力と馬トロ、人力と機関車等で施工されました。



旧小山堤防（山付堤防）の土取り完了全景

阿武隈川水系河川整備基本方針 (第10回)

第10回目は、「河川の整備の基本となるべき事項」のうち、「基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項」についての記載です。このへんから内容が難しくなります。

ダムや遊水池等、洪水調節施設がない状況の河川（自然河川）の状態、河川に流出すると考えられる最大の流量の基本高水は、流域の社会的・経済的な重要性を総合的に勘案して、発生確率規模を1/150（約150年間に1回起こる確率）で設定しています。その時の計画降雨量は、2日雨量で、福島地点で2565mm、岩沼地点で2516mmと決定しています。また、洪水の流出計算は「貯留関数法」の流出計算モデルを使用して、主要6洪水を計画降雨量まで引き伸ばし、流出計算を行い、ピーク流量の最大値、福島地点7,000m³/s、（昭和41年6月型洪水）岩沼地点10,700m³/s（昭和23年9月型洪水）に決定しています。この7,000m³/sは、小学校のプールの容積25m×13m×12m=390m³の18杯分の水量が、1秒間に福島市の阿武隈川を通過する水量を現します。また、10,700m³/sは、同じく27杯分の水量を現します。

洪水調節施設による調節流量は、ダムや遊水池による調節量を現し、現在まで、平成3年に、七ヶ宿ダムが、平成9年に、三春ダムが、平成17年に、摺上川ダム等が完成し、現在に至っています。基本高水と洪水調節流量の差し引き分は、河道内（河川敷内）で安全に通過させなければならない水量となります。

2. 河川の整備の基本となるべき事項

(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項

基本高水は、昭和33年9月、昭和61年8月、平成14年7月洪水を主な対象洪水として検討した結果、そのピーク流量を基準地点福島において7,000m³/sとし、このうち流域内の洪水調節施設により1,200m³/sを調節して河道への配分流量を5,800m³/sとする。

また、基準地点岩沼において10,700m³/sとし、このうち流域内の洪水調節施設により1,500m³/sを調節して河道への配分流量を9,200m³/sとする。

基本高水のピーク流量等一覧表

河川名	基準地点	基本高水のピーク流量 (m ³ /s)	洪水調節施設による調節流量 (m ³ /s)	河道への配分流量 (m ³ /s)
阿武隈川	福島	7,000	1,200	5,800
	岩沼	10,700	1,500	9,200

ここで流域平均2日雨量を解説しますと、福島地点で2565mmは福島市上流の阿武隈川流域に2日間で2565cmの雨が降り積もった量、同じく岩沼地点で2516mmは25.16cmの雨の量となります。なお、岩沼地点の2日雨量を流域全体に降らせると、5,400×1,000×1,000×0.2516m=13億5,864万m³となり、七ヶ宿ダムの総貯水容量1億9,000万m³の12.5杯分の水の量となります。

あとがき

阿武隈川の計画高水流量は、第45号の治水計画の変遷に掲載していますが、河川技術者は、大きな洪水と共に計画の改訂を繰り返し、現在の計画となりました。河川計画の良否は、洪水が証明してくれます。建築確認の構造計算は、地震が証明してくれますが、予想の着かない地震で、人命が危険にさらされる人災は、技術者として、あってはならないことです。

「岩沼出張所つうしん」はインターネットでも見られます
仙台河川国道事務所ホームページ <http://www.thrmlit.go.jp/sendai/index.html>